

平成30年度購入文化財一覧

【奈良国立博物館】(計6件)

1	○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品質・形状 ○寸 法 等 ○作品概要 ○購入金額	<絵画> 紙本墨画春日名号曼荼羅 (しほんぼくがかすがみょうごうまんだら) 1 幅 室町時代 16 世紀 紙本墨画 掛幅装 縦 90.6 cm 横 37.0 cm 藤が絡みつく松の大樹と白鹿の姿を墨画で描く。藤の蔓が「南無春日明神」の六文字を象っている。春日明神号を表す春日曼荼羅は極めて例が少なく、紙本墨画による絵文字形式の曼荼羅は本品が現存唯一である。内箱蓋裏の墨書より、室町時代に奈良を中心に活躍した画家、山田道安の筆とあるが、画風は春日若宮神社付近に工房を構えた櫟屋による作品かとみられる。 3, 500, 000 円	
2	○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品質・形状 ○寸 法 等 ○作品概要 ○購入金額	<絵画> 絹本著色春日宮曼荼羅 (けんぽんちゃくしよくかすがみやまんだら) 1 幅 鎌倉時代 14 世紀 絹本著色 掛幅装 縦 53.9 cm 横 25.9 cm 春日大社の景観を俯瞰的視点で描く春日宮曼荼羅。下端中央に配されることの多い一の鳥居を、中央から外れた位置に配し、そこから右斜めに参道が延びる構図は、鎌倉時代に遡る古様を示している。社殿や樹木を精細に描く作風は、正安 2 年(1300)の作とされる湯木美術館本に近く、その時期の南都絵所の作かと推測される。内箱の銘文より、本品が慶長 10 年(1605)には金峯山寺の僧侶が結縁する春日講の本尊だったことがうかがえ、南都における春日宮曼荼羅の受容を示す貴重な資料とみなされる。 19, 008, 000 円	
3	○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品質・形状 ○寸 法 等 ○作品概要 ○購入金額	<書跡> 法華経 卷第四残巻 (ほけきょう かんたいしざんかん) 1 巻 平安時代 12 世紀 彩牋墨書 卷子装 縦 25.9 cm 長 196.4 cm 法華経卷第四の断簡 5 紙を貼り継いだもの。銀箔・銀截金・銀泥で装飾された料紙を用い、界線には金截金がいられる。本経と同じ経巻から取り出された断簡が写経手鑑「紫の水」(当館蔵)に含まれており、展示と調査研究の両面で本品の活用が期待される。 25, 920, 000 円	

4	○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品質・形状 ○寸 法 等 ○作品概要 ○購入金額	<工芸> 金銅装説相箱 (こんどうそうせっそうばこ) 1 口 室町時代 延徳三年 (1491) 木製、金銅装 縦 35.6 cm 横 25.4 cm 高 13.4 cm 蓋のない縦一尺余の箱で、側面の下半部に格狭間を表すことから、法会の際に法具などを入れる説相箱と考えられる。底板の墨書銘から、本品は延徳三年 (1491) に丹後一宮の大聖院の僧侶、智海が願主となり、現世安穩後生善処を祈願したものと判明する。智海は丹波地方の諸寺での活動より真言系修験僧であったことが知られ、本品はその足跡を示す貴重な遺品であると共に、説相箱の基準作例とも見なし得る点で高い歴史的価値をもつ。 18,576,000円	
5	○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品質・形状 ○寸 法 等 ○作品概要 ○購入金額	<工芸> 金銅鬼面五鈷杵 (こんどうきめんごこしょ) 1 口 鎌倉時代 13~14 世紀 青銅製、鍍金 全長 18.1 cm 鈷長各 5.6 cm 把長 6.9 cm 鈷張 5.5 cm 重 476 g 把部に鬼面を表す五鈷杵で、鬼面を 2 列表す珍しい品。京都・醍醐寺の伝来品に類例が知られるが、中国・元代の将来法具を受容して新たに製作された形式に属するとみられる。箱書によれば本品は奈良・西大寺に伝来したもので、醍醐寺で学び、西大寺を中興した叡尊のもとで育まれた真言律宗に関わる遺品かとも推測される。 7,560,000円	
5	○種 別 ○名 称 ○員 数 ○時 代 ○品質・形状 ○寸 法 等 ○作品概要 ○購入金額	<考古> 盛装男子埴輪 (せいそうだんしはにわ) 1 軀 古墳時代 6 世紀 埴製 総高 137.5cm、最大幅 (上衣裾) 45cm、最大奥行 (上衣裾) 27cm 全国的にも珍しい大型の人物埴輪。文様装飾のある上衣と袴を着し、頭に帽子、腰に大刀を帯びた、古墳時代 (6 世紀) の豪族男子の盛装姿を表す。出土場所や時期は不明であるが、顔や衣服の表現、および胎土の様子から群馬県産と判断される。類品はほぼすべて重要文化財指定品である。海外流出が懸念された作品で、これを国内に留め得た意義も大きい。 27,000,000円	